

## 鹿児島の植物54

## パイオニア植物と落葉樹

植物担当 寺田 仁志

まもなく秋，秋といえば紅葉。鹿児島は落葉樹は少ないと思われているが果たしてそうでしょうか。

鹿児島で落葉樹は標高の高い落葉樹林帯に生えるものと，川筋，身近な里地や里山でも人や自然の営みによって変化が起こった時に生えるものがあります。

標高の低いところにも生える落葉樹にはアカメガシワやネムノキのように自然や人の影響によって土地が変わったところに真っ先に入り込んで緑を回復させる樹木があります。強い光をいっぱい受け，成長が速い樹木種です。成長が速いのは光合成量が多いためですが，呼吸量も多く，受光量が少ない冬季には夏季に貯まった老廃物とともに葉を落としておいた方が得策です。このような植物を先駆植物＝パイオニア植物と呼んでいます。パイオニアとは開拓者，先駆け，すなわち荒れたところを豊かなものに変えるという意があります。

パイオニア植物（もちろんススキなどの草本種も多い）で樹木種の中にはクロマツなどのように常緑樹もありますが，落葉樹がほとんどです。このため秋には葉の色が変わり落葉するため，森の中での所在がはっきりとわかります。

パイオニア植物は色々な樹木種があります。20m 近くまで成長するカラスザンショウ，ネムノキなどや，せいぜい3m 前後になるウツギ等もあります。

土地の変化が起こった場所は光の争奪が

厳しく蔓植物なども多いところ  
です。カラスザンショウは鋭いとげを持ち蔓植物のまき付けから難を逃れたり，草食動物から身を守るのにも役立っています。



カラスザンショウ

さてパイオニア種の幹は密度が小さく軽いものがほとんどですが，その代表がキリと名がつく植物です。イイギリ（イイギリ科），アブラギリ（トウダイグサ科），ハスノハギリ（ハスノハギリ科），アオギリ（ア

オイ科），ハリギリ（ウコギ科），キリ（ゴマノハグサ科）などがあります。植物としての類縁関係はありませんがいずれも葉が広く成長が速いため下駄や家具などに使われ，人々に重宝されました。



キリ

パイオニア植物の中でもそれほど大きくなり種があります。クサギやゴンズイ，キブシ，コガクウツギなどです。

この中には幹の中心部（髄）が白いスポンジ状のものがつまっていたり，中空になっているものがあり，ウツギと呼ばれています。

ウツギ，コガクウツギ，ニシキウツギ，ツクシヤブウツギ，コフジウツギ，コツクバネウツギなどいずれも低木で，花が美しく花期が長いので古来から人々に親しまれています。



ニシキウツギ

パイオニア種の中には人が増やした厄介者もあります。ハゼノキです。

ハゼノキの実にはろうそくに使われる蠟成分をたっぷり含みます。元々日本にあったヤマハゼやヤマウルシにも含まれているのですが，量が多く質がよいということで薩摩藩は琉球を経由して中国のものを取り寄せ，藩命で栽培させました。その子孫たちが今はほとんど利用されることなく方々の里山に繁茂しています。樹液に含まれる成分によって人がかぶれてしまうことが多く厄介者扱いされています。



ハゼノキ

この厄介者が輝く季節がまもなくやってきます。鹿児島の低地部で一番鮮やかに紅葉するのがハゼノキ。この鮮紅色の山肌を見たらかつて伐採や土砂崩れなどが起こり今，パイオニア植物が緑を回復させている段階だと思っても間違いありません。